The Lions News

DISTRICT 330-A LIONS CLUBS INTERNATIONAL
http://www.lions330-a.org/

2011 Spring

表紙画協力:口と足で描く芸術家協会

Contents

トピックス(LCIFセミナー&国際理事報告会他)・日本赤十字社献血レポート
モンゴルとの友愛を深めるために・クラブアクティビティ・シアトル国際大会

特　集

女性メンバー ライオンズクラブを語る

Topics

2月4日 ＬＣＩＦセミナー＆国際理事報告会

千代田区の憲政記念館にて 330-A 地区 LCIF 委員会および国際理事委員会主催の「LCIF セミナー＆国際理事報告会」が開催され、地区内のメンバーや 330-C 地区の役員ら、約 190 名が参加した。

第一部では、国際協会本部の LCIF 担当田辺憲夫課長より「献金と交付金について」約 50 分間のセミナーが開催され、LCIF の概要や献金の運用実績、交付金の種類、申請から承認までの流れなどを、過去の申請事例を引用しながら、解りやすく具体的な説明があった。

続いて、地区内の交付金活用事例として緊急援助交付金を受けた 7R の事例について 7R RCＬ小島（練馬ＬＣ）から報告された後、Ｌ 柴田（新都心 LC)、Ｌ 藁谷（鶯谷 LC）より、LCIF 国際援助交付金の具体的活用についての実例がそれぞれ紹介された。

第２部の「国際理事報告会」では、山浦晟暉国際理事（新宿 LC 所属）のこれまでの実績が紹介された後、昨年７月の国際理事就任以降の国際協会の動向及び理事活動について詳細な説明があった。

山浦国際理事はライオンズクラブが国連に認定された名誉ある団体である事や、シドＬ．スクラッグスⅢ国際会長との交流を通じたエピソード、国際理事の役割などを紹介した。また、山浦国際理事が国際理事会へ提案した「薬物乱用防止委員会の設立」についての趣旨を説明した後、国際理事としての今後のビジョンを発信した。

2月 20 日 330-A･B･C地区共催若手フォーラム

東京プリンスホテルに於いて、330A･B･C地区共催、330 複合地区後援による「若手フォーラム」が開催された。

会場には 330MD 役員ほか、ウィン・クン・タム国際第一副会長、不老 安正･山浦晟暉 両国際理事、サムソクディ・ロヴィス元国際理事、後藤隆一元国際理事ほか、地域を越えて多数のゲストが参集した。

来賓挨拶に立ったタム国際第一副会長は「奉仕する側も奉仕される側も双方が幸せになれるのがライオンズの美しさであり、コミュニケーションを大切にしてライオンズが世界で一番素晴らしい組織だと信じて行動を起こせば、夢は現実となる」と語り、全国から集まった約 200 名の若手メンバーに向けて熱いエールを送った。

フォーラムは先入観の無い自由な交流を促進する目的で、参加メンバーはフォーラムが終了するまで所属クラブやライオン歴などの個人情報を伝えないことを義務づけられ、氏名の代わりにニックネームで呼び合うというルールのもとで進行した。

ディスカッションに先立って、刺激的な活動を展開している若手ライオン３名より発表があった後、18 グループに分かれてのグループディスカッションでは「豊かなライオンズ・ライフ」「若手ライオンだからできること」の２つのテーマについて活発な討議そして斬新なアイデア、意見交換が行われた。

３月 11 日「フォーラム&チャリティーコンサート」

３月 11 日（金）豊島区池袋の東京芸術劇場にて開催を予定していた「フォーラム&チャリティーコンサート」が、同日午後２時 46 分ごろ発生した東北地方太平洋沖地震の影響により施設の安全な使用は困難であるとの判断から、イベントの開催は中止された。

当日は「フォーラム&チャリティーコンサート」に加えて、ライオンズクラブの奉仕活動を PR するための各種イベント「チャリティーパーク」が午後 12 時より池袋西口公園に於いて開催中だった。

地震発生時に現地周辺が騒然とする中、緊急避難場所に指定されている池袋西口公園に集まってくる人々に対して、ライオンズクラブメンバーは、特設ステージ上から妊婦やお年寄りへの配慮を呼びかけ、体調の悪い方をテント内に誘導するなど、多数のライオンズメンバーが緊急時の迅速な対応を行った。

女性メンバー ライオンズを語る

2011 年２月 17 日
女性メンバーディスカッション

世界のクラブ会長の5人に1人は女性

1987年に台北で開催された第70回国際年次大会で、ライオンズクラブに女性の参加が認められてから早24年。

それまでは男性社会であったライオンズクラブも、今や男だ、女だという区別はナンセンスの時代となった。

国際協会でも、国際理事会の約12％にあたる4人は女性の国際理事であり、世界の地区ガバナーの約21％、157人が女性ガバナーである。さらにクラブ会長にいたっては、全世界約45,000クラブのうち8,851人が女性である。

女性ガバナー誕生

そこへいくと、何年か前に名門といわれたクラブを訪ねた時に「女性が入会するなら俺はライオンズクラブを辞める」という発言すら聞かれた330-A地区で、今期始めて女性のガバナー河合悦子が誕生した。

ちなみに全日本での女性ガバナーとしては２番目で、始めての女性ガバナーは330-C地区のＬ桜井慧子である。

では、330-A地区内の女性メンバーの構成はどうなのかというと、在籍メンバー4,440人中女性は678人で約15％（2010年12月現在）である。

国際会長も日本の女性メンバーに期待

そもそも人類の半分は女性であり、会員増強の掛け声が大きく響く中で、女性パワーを生かさない手はないはず。

さらに昨年11月にシドL．スクラッグスⅢ国際会長の強い要望もあって、折よく来日にあわせて日本で開催された「日本女性会員ワークショップ」もその内容が２月号のライオン誌に大きくレポート報告されるなど、女性メンバーへの期待は高まる一方だ。

女性による自由な発信の場

しかしながら、日本のライオンズクラブはメンバーといえば男性で、女性メンバーは世界のライオンズの中でも圧倒的に少ないという現状である。

こうした背景を踏まえてＰＲ･情報委員会では、河合ガバナーの意向も組んで、男性の中で孤軍奮闘？を重ねている女性メンバーに集まっていただき、女性視点での意見発表の場が少なかったであろうことから、普段の不満？苦言？提言？など、会員増強を視野に大いに語っていただくことにした。

尚、発言内容は委員会が責任を持つこととして、発言者のお名前は省略させていただくことをお許しいただきたい。

参加者の過半数が事務局初訪問

今回のディスカッションには在籍年数やキャビネット経験を問わず、アクティヴなメンバーという条件で集まって頂いたのだが、参加メンバー９人に河合ガバナーが新宿キャビネット事務局に来たことがあるかどうかを聞いたところ、過半数が今回が始めてと答えて驚かれていたことを付記する。

女性会員を増やすには

女性会員増強のためには、クラブ単位ではなく、ゾーンやリジョン、地区など参加対象を広げた女性だけの集まりを企画して欲しい。

大勢の女性パワーの中に入会希望者を誘うことによって、ライオンズクラブの垣根を低くし、女性が入会し易くすると同時に、話題も女性に興味のあるものが中心となるはず。

女性の人数が少ないと、やっぱり淋しく感じる事もあるし、男性の意見にひっぱられてしまう。

男女の感覚の違い

女性だけのライオンズクラブは、どうしても女性特有の仲良し組（派閥）ができる可能性が高く、それが分裂を産む原因になりやすい。

男性の場合も派閥は作るけれど、縦社会（先輩後輩など上下の人間関係を重視）に慣れていて、問題を回避する智慧をもっている反面、女性は横社会（同列感、似た生活習慣を重視）という感覚の違いもあるため、女性は縦社会寄りの組織に所属していることを予め理解しながら活動すべきとも言える。

ライオンズはＰＲ不足

クラブに入会する時の敷居は高いけれど、いざ入ってしまうと意外に内情は緩いということに気がついた。

ライオンズクラブが、いまだに「マンションの称号ですか？」とか「野球の応援団？」と聞かれるのも外部へのＰＲが弱く、不足している象徴だと思う。

ステイタスとか入会条件に関係なく、気軽に参加できる集まりがないのは増強のマイナスだと思うし、クラブ内だけの活動では外部に対するＰＲにならない。

また、各クラブのＨＰも地味で、更新されていないケースが目立つ。

出会いを生かせない

ライオンズクラブは大勢の人と交流ができることが魅力なのに、名刺の交換だけで終わってしまい、そこからさらに発展させられないのは残念で、折角の出会いの機会を無駄にしている。

ツイッターやフェイスブックなどのソーシャルメディアが注目される時代なのだから、ライオンズクラブもＩＴを積極的に活用するべきだし、ライオンズが発信しているネット情報も活用できるようにメンバーに宣伝したらいいと思う。国際会長のブログなんて知らなかった。

ワクワクする奉仕活動を

アクティビティをサークル活動のような感覚で楽しんでできることが大切なポイントだと思う。

正直に言うと会長自身が全くワクワクしていない場合もあり、あと何日で会長の任期が終わるなどといった発言を聞くとトップがワクワクしていないのに、なんであとをついていけるのかと思ってしまう。

役職者がアクティビティを楽しんでいないのに、どうしてクラブのメンバーを楽しくできるのかが不思議。

自分がワクワクできないと、人をワクワクさせることは難しい。

かといって、ワクワクするアクティビティを自分のクラブに提案していきたいので、メンバーに相談しても具体的に動いてくれない。

今までは何もわからずに入会したので、ついていくしかなかったけれど、気の合う仲間を作って実行するしかないのではと思う。そのためにもクラブ同志の横のつながりが欲しいし、他クラブのアクティビティにも参加したい。

アクティビティには愛情が加味されることが大切で、ライオンズクラブがアクティビティに愛情の力を求めている点を強調すれば、女性メンバーの増強につながると思う。

女性メンバーの悩み

多種多様なクラブがあるので、中には男性社会を感じないクラブもあろうが、男性にはすんなり理解できない感性が女性にはあるし、やっぱりライオンズクラブは男性中心の団体なので、いろいろな場面で女性目線ではないと感じることが多い。

男女の感覚の違いが大きいと感じるのは、生活に関わる時間の感覚。

女性メンバーは子育てに手がかかるので家事、育児から少しでも解放されれば、もっとライオンズ活動に参加するのも可能となるのではないか。

その点では、家族会員や支部などの制度を活用して勧誘をするのも必要だし、女性特有の家事、育児に関わる問題を解決してあげると参加する女性が増えると思う。

例えば、例会にベビーシッターを用意するとか、もっと頭を柔らかくして女性目線で考えれば、女性メンバーの増強につながる要素も多くある。

但し、現状のライオンズの体制ではスムーズな実行は難しい気がする。

いずれにせよこれから発生頻度が高くなるであろう介護の問題も含めて、ライオンズクラブに参加している女性自身が沈まぬ船にならないといけないと思う。

女性同士の情報共有

今の地区内では、ライオンズクラブは男性中心なので、こうして他クラブの女性メンバーに会えるのは嬉しい。

同じクラブの先輩女性メンバーとのお付き合いは嫌ではないが、年齢による時代のずれを感じることもある。

できれば、今後も女性メンバー同志で女性経営者ならではの悩みや、子育て、家事などの意見交換がしたい。

ライオンズの感心しないところ

やはり外部から見ると、ライオンズは敷居が高く見えてしまうのは欠点ではないかと感じる。

折角集まっても食事をして終りという在り方ではライオンズクラブとしては全く魅力がない。

男女を問わず新入会員に対しては、クラブの歴史と、その中で行なわれてきたアクティビティを知らせることも重要だと思うし、ライオンズクラブそのものに対する知識も勉強できる場を用意して欲しいと感じる。

また、先輩が、そろそろ引退だという発言をされると、社会奉仕に引退があるのだろうか、と感じてしまう。

会費かハンドバックか

会費については、安いクラブから高いクラブまで様々で、もちろん時流に合わせて会費制度の見直しも必要とは思うが、自分が負担した金額に対して実施した社会奉仕に満足感を得ることができれば、それで良いと思う。

一方で、クラブ会費を払う時、このお金でハンドバッグが買えるなあ、と思うことも正直ある。

これからのライオンズの評価

女性にも関わらず、ライオンズクラブに入会したと言うとすごいねといわれるが、やはりライオンズクラブならではの社会奉仕活動の価値が打ち出されないと世間からの評価は低くなる。

募金活動をすると、お金を預けても大丈夫か？という心配をされた経験があるが、もっと世間から認識され、信用される必要性を感じている。

例えば、社会に向けて広く企業理念を発信するためにボランティアを実践する会社も多くあるが、そうした他の組織の在り方を参考にしながら、各クラブで運営やアクティビティの方向性を考えると良いのではないだろうか。

ディスカッション参加メンバー

Ｌ荒川 友美子
千代田ＬＣ

Ｌ阿部 かな子
ワンハンドレッドＬＣ

Ｌ大和田 尚子
赤坂ＬＣ

Ｌ佐藤 雅子
ウィルＬＣ

Ｌ気谷 昌代
渋谷ＬＣ

Ｌ須藤 陽子
世田谷ＬＣ

Ｌ高久 啓子
新都心ＬＣ

Ｌ山口 美生
国立ＬＣ

Ｌ芦澤 貴美子
秋川ＬＣ

※左側より所属リジョン順

ライオンズクラブの献血活動と日本赤十字社

有楽町献血ルーム・東京都赤十字血液センター取材レポート

人間の生命を維持するために欠くことができない血液は人工的に造ることも、長時間保存することも不可能だ。従って、患者の命を守るための血液を確保するべく、献血の呼びかけは今日も全国で休みなく行われており、我々ライオンズも献血活動奉仕に積極的に関わってきた。そこで今回は日本赤十字社の全面的協力を得て献血業務の現状を取材した。

日本ライオンズと献血の歴史

ライオンズクラブでは古くから献血奉仕活動に貢献してきた歴史があり、現在も地区内の多くのクラブがそれぞれの地域で献血の呼びかけを積極的に行っている。

浅草LCを例に挙げると、毎年正月早々(1月2日、3日)に献血活動を行っているが、同クラブの会報誌によると30年以上前から毎年同じ場所で活動が続けられてきたことが記録されている他、地区内の歴史あるクラブが永年献血活動を続けている例が多くある。

ここで、ライオンズクラブと献血活動の歴史を知る上で貴重なエピソードをＬ池崎道男（元地区ガバナー名誉顧問・東京ＬＣ所属）から聞くことができたので紹介したい。

日本にライオンズクラブができて間もない頃、岩手県の漁師がハワイ沖で操業中、網にかかったサメに噛まれて片腕を失う大怪我をした。

このときハワイのライオンズクラブが援助の手を差し伸べ、連絡を受けた東京ＬＣは漁師ご家族のハワイ行きの旅費などを支援したのだが、怪我をした漁師が日本の空港に帰り着いた途端に傷口から大量の血液があふれ出たため、居合わせたライオンズクラブメンバー（Ｌ守田※当時の坂東三津五郎氏の運転手）らが献血に協力し、一命を取り留めた。

この出来事が当時大きな話題を呼んだことが、その後のライオンズクラブが献血活動に積極的に関わるきっかけになったとも言われている。

充実した設備と意外なサービス

ＰＲ・情報委員会では献血の現状を取材するために有楽町の東京交通会館6階にある献血ルームを訪れた。

2010年10月にリニューアルされたばかりの空間は、赤十字の活動を発信するための重要な拠点として「メッセージコア」とも呼ばれているが、まるで空港のビジネスクラスラウンジのようなゴージャスな雰囲気に先ず驚かされる。

ゆったりした高級感ある待合室には、閲覧用の書籍やドリンクコーナー、お菓子バーが用意され、ロッカールームも自由に使える。また、液晶テレビが付属した採血ベッド、さらにはイベントルームなど充実した設備が完備されている。

たまたまイベントルームでは、二人の女性がボランティアで「ハンドヒーリング」を行っていたので、試しにやって頂いたのだが、体に一切触れないにも関わらず、肩が軽くなった感じがした。

献血ルームの意義

取材当日は大勢の献血者が訪れていたのだが、有楽町献血ルーム所長井上晋吾氏によると、献血ルームの休日は年間を通じて12月31日と元旦のみで、一日の来場者数は平日で150人、休日は250人に上るという。

東京都赤十字血液センター高木啓輔氏は「病気や怪我などの理由で輸血を必要とする人たちは毎日引きもきりません。しかし、献血によって得られた血液の血小板は、採決した日を含みたったの4日間しか保たないのです。（※赤血球は21日間保たれる）そうした理由から、献血ルームや献血車などを通じて、毎日献血の呼びかけをしているのです」と語る。

献血奉仕に関わるクラブメンバーのみならず、献血の現状を知るためにも一市民として献血ルームを訪れてみることをお薦めしたい。

世界有数の血液センターを訪問

続いて訪れたのは、江東区辰巳にある東京都赤十字血液センター。

施設の規模は日本はもとより世界でもトップクラスにあり、一年間の血液供給量は日本全体の約10%以上を占め、高度医療機関が集中する東京の医療を支えるべく、都内13ヶ所の献血ルームと約20台の献血バスとの連携を図りながら、安定した輸血用血液の確保に向けて日夜活動している。

同センターでは血液事業、献血の情報を広く一般に知らしめるためにグループ（原則として30名迄）での見学を受付けており、企業やボランティアなど様々な団体が見学や研修に訪れている。

見学内容としてはオリエンテーション・ＤＶＤ視聴・所内見学という流れで所要時間は約１時間３０分である。

尚、同センターのホームページから見学のための書類をダウンロードできる。

貴重な血液を輸血用血液にするために

オリエンテーションでは、大切な血液を扱うために、建物は免震構造で高度な安全性が確保され、環境にも配慮されているなどの施設説明の後に、献血された血液が輸血用製剤になるまでの工程をビデオで知ることができる。

同センターに運び込まれる血液は、血液型検査、感染症検査、生化学検査、血球計数検査、核酸増幅検査などの厳密な検査が一日で素早く実施される。

そして、検査を経た血液は、血液を構成する各成分（赤血球、血漿、血小板）に分離され、輸血用血液製剤が作られるのだが、これら血液の検査から製剤までの工程は医薬品製造とみなされるため、センター内の作業所はGMP（Good Manufacturing Practice）に基づく厳しい品質管理基準を満たしている。

また、献血者に検査結果を連絡するのも同センターの役割である。

血液から輸血までの情報源

東京都赤十字血液センターでは、病院など医療機関からの要望(注文)に応じて血液製剤を供給しており、安定した供給体制の維持も大切な業務である。

なお、無料で献血された血液だが、製剤化や供給するためのコストに充てるために、同センターでは医療機関に対して血液製剤を販売している。(参考までに製剤は400mlで16,000円位)

このように東京都赤十字血液センターでは、献血された血液が輸血用として検査、加工され病院など輸血用血液を必要とする医療機関に運ばれていく様子を解りやすく見ることができる。

献血アクティビティに関わるライオンズクラブメンバーは見学、研修を随時受け付けてくれる同センターに気軽に相談してみては如何だろうか。

東京都赤十字血液センター
連絡先Tel:03-5534-7501

有楽町献血ルーム（待合ラウンジ）

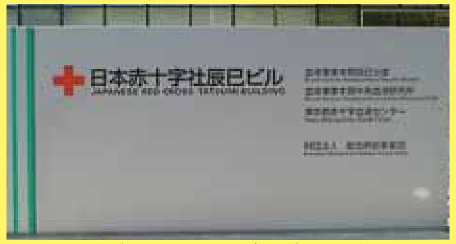
有楽町献血ルーム（採血ルーム）

有楽町献血ルーム（待合ラウンジ）

有楽町献血ルーム（採血ベッド）

ハンドヒーリング

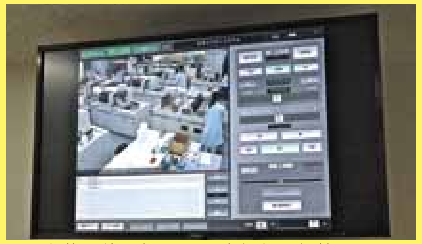
東京都赤十字血液センタースタッフの皆様



東京都赤十字血液センター案内サイン

血液センターの緊急用車両など

血液製剤用献血キット


施設内のセキュリティシステム

出荷を待つ輸血用血液製剤の保管場所

感染症検査などの説明をいただいた検査科の鈴木課長

見学用通路からガラス越しに検査工程を見学できる

モンゴルとの友愛を深めるために

中野了元地区ガバナー・モンゴルコーディネーターに聞く

Ｌ中野了（渋谷ＬＣ所属）
1961年ライオンズクラブ入会、2001－02年度330-A地区ガバナー、2003年度より国際協会からモンゴル・コーディネーターを委嘱されている。

日本ライオンズとモンゴルの関係

1992年度に330複合地区ガバナー協議会（議長Ｌ大野元昭※当時）として初めて「海外エクステンション委員会」が設置され、委員長に330-Ｃ地区の栗原元地区ガバナーが就任。翌93年秋に栗原元地区ガバナーの所属クラブである東松山ＬＣをスポンサーとして、モンゴル初のＬＣとなるウランバートル・セントラルＬＣが誕生しました。

モンゴル・コーディネーターとは

国際本部から直接委嘱されるワンイヤールールの制約を受けない準国際役員で、1993年に330-Ｃ地区の栗原元地区ガバナーが就任され2002年6月に他界されたため後任として私が委嘱されました。

新しい国または領域にライオンズが誕生した後に17クラブ、会員数が450名という条件に達すれば、国際協会から暫定地区として認められ独自にガバナーを選出できますが、その条件に満たない段階ではガバナー代行としてコーディネーターが委嘱されるのです。

尚、現在10数名のコーディネーターが世界で活動しているとのことです。

担当するエリア内の各クラブに対してクラブ運営・会員増強等の指導をはじめ情報提供・教育、新クラブのチャーター申請書やＬＣＩＦ交付金申請書などのガバナー欄への署名などが主な任務です。

孤軍奮闘

コーディネーター就任2年目にライオンズクラブの奉仕精神をモンゴルに広く伝えることを目的として「モンゴル支援委員会」創設の提案を330複合地区に行い承認されました。

しかしながら国際本部とのやりとりや文書の翻訳、現地との調整など業務の大半を私が単独で行っているのが実情のため、改めてモンゴルへの支援体制の強化を切に望んでいます。

モンゴルライオンズの現状
（2010年6月現在）

私が初めてモンゴルを訪問した際は４クラブでした。その後一時的には８クラブ200名近くにもなりましたが、国際会費未納問題やクラブ内紛争等によって数クラブの消滅がありました。

そのような増減を経て現在は８クラブが活動しています。

メンバーは富裕層が多く、学校の教師、銀行員、医師などが目立ち、あるクラブでは新規入会者17名のうち8割が医者だったこともありました。

モンゴルは親日国家として知られている通り、モンゴルＬＣメンバーとの交流は心温まる友愛を感じます。

モンゴルの魅力

モンゴルは南側を中国、北側をロシアに囲まれた人口270万弱の国です。

首都ウランバートルは標高1,350mですが、郊外の標高2,000m位のキャンプ地を訪ねると、季節によっては果てしなく広がる緑の大草原や群れをなす牧羊などを見ることが出来ますし、感動的な美しい星空に出会えます。

そして音楽では「馬頭琴」の演奏とモンゴル特有の歌い方である「ホーミー」に魅せられます。

「日本の演歌の源流は韓国にあり」と言われますが、「日本の民謡の源流はモンゴルにあり」と私は位置づけています。

年次総会について

私の就任当初、現地の責任者は暫定ＺＣのＬウルジィでしたが、本人は勿論周辺のメンバーも役職についての十分な知識を有しておらず、国際本部との情報伝達などの連携も決して満足できるものではありませんでした。

そこで、私は私たちの年次大会に準ずる年次総会の開催を要請しました。（公式な地区ではないため年次大会の呼称は使いません）

第１回の総会はウランバートル郊外の緑の大草原の中で開催されました。

各クラブがテントを張り、日本から寄贈されたクラブ旗がはためき、アクティビティ展示や工夫を凝らした料理が用意され、ミニ・ナーダム（ナーダムとは毎年７月11日の革命記念日に開催される祭典で、競馬、モンゴル相撲、弓射の３種競技を行う）も催されるなど、本当に楽しく有意義で、その光景にライオンズの原点を見た思いでした。

モンゴルの観光シーズンは７月からですが、私たちの年次大会や国際大会の日程を考慮して、5月末から6月中旬に年次総会を毎年開催いたします。

第一回年次総会の様子

今年の年次総会にご参加を

今年は6月15日から20日の間に年次総会の開催、新クラブの結成式、KHERLEN（ヘルレン）LCの結成10周年式典などを予定しており、例年以上に有意義な期間となります。

私は５日間滞在致しますので、A地区のメンバーの皆様には是非ともモンゴルをご訪問頂きまして、壮大な自然とライオニズムの原点を体験頂けましたら幸いに思います。

厳しい自然環境と発展途上の国

私がこれまでに訪問した国立総合病院や国立母子病院などの建物や医療施設の劣悪さには本当に驚かされました。

そこで具体的に何が欲しいのか病院に尋ねると、1台の幼児用血圧計を６人の医師が使い回しているというので、2007年に渋谷LCのアクティビティとして血圧計10台を含む30万円分の医療器具類を贈呈しました。

近年はモンゴルの地下資源（レアメタル）が世界的に注目され、都市部で高層ビルが増えて高級車も見かけるようになりましたが、一方で空港施設をはじめとした交通インフラ、インターネット等の普及は遅れていますし、貧富の差が拡大したと言われています。

また、冬にはマイナス40度になることもあるほど厳しい自然環境の国です。

このように、まだまだモンゴルは発展途上の国であるという現状をお伝えしたいのです。

日本からの奉仕の可能性

他地区のアクティビティで車椅子を200台納入頂いたり、LCIF交付金で援助して頂いておりますが、都市部では依然としてマンホールチルドレンも多く、教育施設の整備や障害児への援助など子供達に対する支援が急務です。

しかしモンゴルのライオンズクラブが奉仕への力不足のため、モンゴルのクラブに対して、交流を持って頂きたいと願っています。

モンゴルの子供達

モンゴルに温かい眼差しを

モンゴルと日本は歴史的にも深い関係があります。そのモンゴルの地に私たちの330複合地区がライオンズの種を蒔き、そして今、確実に地域に根付いて芽をふき育とうとしています。

私はこの苗木に葉が茂り枝を広げ、美しい花を咲かせる日を夢見ながら、愛の心を贈り続けたいと思っています。

この機会に330複合地区はもとより、日本の各地区や各クラブの皆様にもモンゴルに対して、格別なご理解と暖かな友愛の眼差しやお心をお届け下さいますように、心からお願い申し上げます。

12月16日　大塚ろう学校ディズニーランド遊覧
巣鴨LC

快晴に恵まれた東京ディズニーランドのゲート前には巣鴨にある都立大塚ろう学校の子ども達が集まって大賑わい。
先生方、子ども達と保護者、１００人余が大きな期待に胸をふくらませて、初めてのディズニーランド遊覧である。
巣鴨ＬＣが「ディズニーランドに行ってみたい」という子ども達の願いを叶えようと、Ｌ今井文彦会長を中心に計画を進め、ディズニー側にも協力いただいて初めて実現した。
ステージ鑑賞、プレゼント抽選会や写生会、ミッキーと一緒に記念撮影など、参加者の笑顔いっぱいの一日だった。

12月22日　中目黒銀座商店街に防犯カメラ寄贈
山手LC

山手ＬＣより目黒銀座商店街に防犯カメラ３台が寄贈、設置され、中目黒ＧＴ広場で運用開始式が開かれた。
昨今、目黒区内でも凶悪な事件が発生しているが、防犯カメラは犯罪の抑止に大きな効果を発揮する。
目黒防犯協会の彦坂会長は「山手ＬＣの協力を得て目黒警察署とも相談し、防犯カメラの設置が決まりました。商店街のご支援もあり、さらに安全・安心な街になればと思う」と挨拶。防犯カメラは犯罪の抑止に大きな効果を発揮する一方、犯人検挙にも役立ちそうだ。

1月16日　第50回新春たこあげ大会
昭島LC

毎年恒例の『新春たこあげ大会』が昭島市の多摩川河川敷で行われ、今年で５０回の節目を迎えた今大会に、昭島ＬＣが青少年育成アクティビティーの一環として協賛した。
会場は東部、中部、西部、北部の４地区で同時に開催され、午前１０時に受付開始、北川穰一昭島市長のご挨拶で始まり、競技は約１時間に渡り行われた。選任された審査員により『アイデア賞』『美術賞』等を審査対象とし『優秀賞』が決定された。参加人数は、小学生以下９３１名、中高生２名、役員・父兄１,０４１名、合計１,９７４名だった。

1月30日　第26回中国帰国者の会日本語発表会
セントラルLC

セントラルＬＣ主宰の中国帰国者の会日本語発表会を国立オリンピック記念青少年総合センターで開催した。
この日に向けて一生懸命練習を重ねて発表する皆様が、良い発表が出来た事、そして喜んでいる応援者の姿、これこそアクティビティの原点であると改めて実感した。
本会は「東京都中国帰国者自立研修センター」「東京ＹＷＣＡ後楽園日本語学校」「中国帰国者の会生活相談室」「日中友好残留孤児虹の会」ほか多くの皆様方のご協力を得て、開催できることに心より感謝している。

2月6日　作文コンクール「ふるさと高尾山」
八王子LC

八王子駅前のクリエイトホールにて高尾山環境保全基金協力会主催の作文コンクールが開催された。
地元の小学生を対象に、「ふるさと高尾山」への思いを綴った、応募８５９通の作文の中から都退職校長会の元校長らが審査を行い当日４８人の入賞者の表彰が行われた。
最優秀賞高学年の部の６年生の渡辺奏音さんと低学年の部の３年生の石川珠希さん二人の表彰と朗読が行われた。
表彰式の後は女性登山家の今井通子さんが「都民のオアシス、高尾山とのつきあい方」というテーマで講演した。

2月6日　がんの子供達とその家族を支援する チャリティコンサート
中央南LC・赤羽LC合同

会場の東京北区赤羽会館は、暖かいご支援をくださる皆様で、２階まである６５０席が満席になる中、両クラブ代表者により（財）がんの子供を守る会へ売上金の一部を贈呈する寄贈式が行われ、Ｌ山口勝一委員長（中央南ＬＣ）は「狭い病室で病と闘う幼い子供達、多忙の中で懸命に我が子を支えるご家族を支援し、無事退院して明るい未来を迎えさせようではありませんか」と熱い思いを伝えた。
お招きした歌手の北山たかしさんの歌声で会場を魅了した後は、北島音楽事務所Ｌ大野雅子らが募金活動を行った。

2月9日　口と足で描いた世界の絵画展
晴海LC

世界には身体に障害を抱え、手のない人であっても、口や足に絵筆をとり、努力を重ねて健常者でも真似る事の出来ないような素晴らしい絵画を描いている人々がいる。
この素晴らしい作品たちを出来るだけ大勢の人々に見て頂こうと、晴海アイランドトリトンスクエアにて絵画展が開かれた。一作品を完成させるには数年もかかるものもあり、一人の作品数はごくわずかで、全部非売品だ。
本年で３回目。材料代にもならないが、少しでも協力できればと思い、出来るだけ継続して支援していきたい。

2月11日　第24回少年少女レスリング選手権大会
新宿LC

新宿区内スポーツ会館に於いて関東圏より参集した２６チーム幼児、小学生２４８名の選手が集い、東京新宿ＬＣ旗争奪第２４回少年少女レスリング大会が開催された。
活発に身体を動かしたい盛りの子供たちが、レスリングという競技を通して礼儀や技ルールを身につけ、年ごとに逞しく成長していく姿には目を見張るものがある。
勝って意気揚々、負けて悔し涙の選手をどちらも激励する父兄やコーチ達の風景は、人を育てる意気に燃えていた。
会場に河合ガバナー、山浦国際理事がかけつけ激励した。

2月26日　チャリティーボーリング大会
ワンハンドレッドLC

港区芝浦「田町ハイレーン」に於いて２フロアを貸切ってチャリティーボウリング大会が開催され、多数のクラブから２００名近いメンバーにご参加頂いた。
開会前に日本プロボウリング協会会長の中山律子様より、ボウリングの指導を頂いた後に２ゲームを行い、懇親会会場に移動して参加者同士の親睦を深めた。
今大会の収益は、様々な要因で競技継続が困難な若きアスリートを支援している HDP(ホシノドリームズプロジェクト※チェアマン星野仙一氏) に寄付させて頂く。

2月26日　第4回 カラオケフェスティバル
すずしろLC

すずしろＬＣは大泉学園駅前にあるゆめりあホールに於いて、視覚障害者支援チャリティカラオケフェスティバルを主催した。出演者は７４名、司会は一谷伸江さん。
区民なら誰でも入場無料で参加でき、プロによるミニリサイタル等を合間に入れるなど、観客を飽きさせない工夫を凝らし、視覚障害者の方々も参加頂き共に歌い楽しんだ。
また、壇上でＣＳＦⅡ（視覚障害のある方への支援）への贈呈式、アイメイト協会への贈呈式、練馬区「緑のハッピー基金」、練馬区はらっぱ公園への植樹の贈呈式も行われた。

第94回 ライオンズクラブ国際大会
アメリカ ワシントン州シアトル
2011年7月4日(月)〜7月8日(金)

主要スケジュール

7月4日 (月)
18:30 〜 21:30　ガバナーエレクト・セミナー祝賀晩餐会

7月5日 (火)
10:00 〜　インターナショナル・パレード
14:30 〜 16:30　会員キー賞アイスクリームを囲んでの集い
15:30 〜 17:00　各種セミナー
19:30 〜 21:30　河合DGと大石DGエレクトを囲む会
18:30 〜 20:00　インターナショナル・ショー

7月6日 (水)
09:00 〜 12:00　初日総会(開会式)※国際会長講演他
13:00 〜 15:00　メルビン・ジョーンズ・フェロー昼食会
14:00 〜 17:00　各種セミナー
17:30 〜　日本ライオンズ代議員会
19:00 〜　ジャパンレセプション
19:30 〜 22:00　国際青少年音楽コンクール

7月7日 (木)
09:00 〜 11:30　二日目総会・人道主義大賞授与他
13:00 〜 17:00　各種セミナー
20:00 〜 22:00　各種晩餐会(元国際会長・元国際理事他)
※山浦晟暉国際理事杯ゴルフコンペ(予定)

7月8日 (金)
07:00 〜 10:00　投票
09:30 〜 13:00　最終日総会(閉会式)
※コンドリーザ・ライス氏基調講演他
19:00 〜 21:00　国際役員レセプション

大会登録費　US$130-(3月31日までの登録の場合)
US$150-(4月　1日以降の登録の場合)
大会登録は、申込先の旅行代理店にて承りますが、大会登録代行手数料と致しまして3,150円を別途旅行代理店より御請求させていただきます。

330-A地区ガバナー
河合　悦子

米国西海岸ワシントン州の大都市"シアトル"にて開催される第94回ライオンズクラブ国際大会は世界各国の仲間が一堂に会し、友好・親善・経験交換・ライオニズムの高揚の為語り合い、喜びと感動を実感出来る最高の機会です。

ライオンズクラブのメンバーである事の素晴らしさを共有致しましょう。

330-A地区メンバーの皆様とシアトルの地で、親しくお目にかかれます事を、心より楽しみに致しております。

国際大会委員会
委員長 L長島 眞

エメラルド・シティー シアトルへ!!
アメリカ北西部に位置するシアトルは水と緑豊かな自然に囲まれた素晴らしい大都市です。

また、ボーイングやマイクロソフト、スターバックスなど世界的な大企業が誕生した地でもあり、イチローの所属する球団シアトルマリナーズのホームグラウンドでもあります。

ぜひ国際大会に参加していただきライオンズの国際性、多様性を皆様と共に肌で感じることが出来れば幸いです。

表紙作者　H.W.リン　(台湾)　作品名　「人形」
1956年8月17日生まれ。
建設工事中の落下事故により、首から下のマヒを負った。1999年に口で絵を描く事について知り、しばらくして、シュウエイ氏の油絵教室に通い始めた。
画家としての才能が開花し、それは作品に表れている。

ライオンズクラブ国際協会
330−A地区

地区ニュース 第5号
(2011 Spring)

発 行 日　2011年3月25日
発　　行　PR・情報委員会

PR・情報委員会

委 員 長　山本　康弘
副委員長　柴田　誠　吉澤　隆志
鈴木　郁朗　奥山　貞夫
委　　員　芳澤　幸男　木下　榮弘　西部　重男
小森　康一　山口　聖之　笠原伸太郎
新渡戸智純　谷澤　進一

ライオンズクラブ国際協会
330-A地区 キャビネット事務局
〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-10-17
新宿ダイカンプラザ B館 2F
TEL 03-5330-3330　FAX 03-5330-3370
E-mail　cab@lions330-a.org